

X 進行管理(点検評価) シート

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (1)確かな学力の育成

細 施 策	①学力向上対策の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	<p>・「川越市小・中学生学力向上プラン」に基づき、教育委員会と各市立小・中学校が一体となって本市の学校教育の充実を図ります。</p> <p>・学力向上研究委員会の活動を推進し、児童生徒の学力を継続的に把握・分析し、さまざまな学力向上対策を推進します。</p>								
平成28年度実績	<p>・川越市小・中学生学力向上プランの趣旨を踏まえ、市立学校の校長、教員で構成した小学校部会、中学校部会、学級経営部会を組織し、年間を通して学力向上研究委員会を開催しました。</p> <p>・全国学力・学習状況調査等、各種学力調査を分析し、児童生徒の学力における実態の把握に努めました。</p> <p>・学力向上研究委員会において、児童生徒の思考力・判断力・表現力を高めるためのモデル授業プランを作成しました。</p>								
指標及び説明	【指標】 勉強は大切と考える児童生徒の割合				【説明】 全国学力・学習状況調査質問紙において、「国語や算数・数学の勉強は大切だと思う」と回答した児童生徒の割合(対象:小学校第6学年・中学校第3学年)				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	%	91.9	H27 92.6	H28 90.3	H29	H30	H31	H32	92.5
現状・課題	<p>・各種学力調査の結果分析から、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能は、おおむね身に付いているとの数値が出ています。</p> <p>・基礎的・基本的な知識・技能を活用し、様々な課題を解決するための「思考力・判断力・表現力の育成」が課題となっています。</p> <p>・「数学の勉強は大切だと思う」と回答した中学3年の割合が、83.2%であり、他と比べ低い状況がみられます。</p>								
改善の方策等	<p>・教育委員会と、各小・中学校が目標を共有し、児童生徒一人ひとりの学力向上に向けた計画的・継続的な取組を推進してまいります。</p> <p>・学力向上研究委員会において、「思考力・判断力・表現力の育成」に向けた、教職員の指導力向上のための研究を継続してまいります。</p> <p>・モデル授業プランの取組を推奨し、児童生徒が勉強が好きになり、大切であるという意識が高まるよう努めます。</p>								

細 施 策	②各学校の課題に応じた学校支援事業の推進				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施策の内容	<p>子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止等、各学校におけるさまざまな課題に応じ、オールマイティーチャーター(臨時講師)を配置し、課題解決を図ります。</p>					
平成28年度実績	<p>校長の創意を生かした企画書に基づき、各学校の課題に応じて、市内の小学校3校に3人、中学校11校に11人(国語1人、社会1人、数学1人、理科3人、英語1人、保健体育3人、美術1人)の市費による教員を配置しました。これにより、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進することができました。</p>					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	臨時講師配置状況(人)	13	14	14		
	配置校の内、課題の解消率が60%以上の学校の割合(%)	92.3	84.6	71.4		
現状・課題	<p>各学校の課題に応じた活用により、きめ細やかな指導ができました。配置校では、加配により生徒指導主任や教育相談主任に機動力が生まれ、生徒指導体制の充実が図れました。これにより、いじめの発生件数の減少や未然防止、授業規律が図られたことによる学力向上等の成果を得るなど一定の成果を上げています。しかし、解決のしやすい課題から解決の難しい課題が増加したことが、解消率に影響しています。そのため、課題の解決には、複数年の取組が必要な場合や、課題の解決が図れた場合でも、改善された状況を維持・向上していくため、継続的な配置を行う必要があります。</p>					
改善の方策等	<p>配置した学校での効果を検証しながら、必要とする学校に対し、各課題に応じて教員を配置し、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進していきます。また、課題解決につながるよう、各学校での活用方法について指導したり、配置の工夫をするなどして、効果的かつ柔軟な運用により、学校の多様なニーズに対応していきます。</p>					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (1)確かな学力の育成

細 施 策	③科学わくわくラーニングプログラム事業の推進				担当課	担当課評価
					教育指導課	A
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組の充実を図ります。 ・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を推進します。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生79名を対象に、1日目に講演会、2日目に実験・実習、3日目に日本科学未来館で体験学習を行いました。 ・理科実験助手派遣事業により、小学校14校に理科実験助手を派遣しました。 ・小・中・大学連携理科ふれあい事業を小学校11校・中学校2校で実施しました。 					
成 果 実 績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	小学校科学事業実施後アンケートにおいて「体験学習等を通じて科学的に考えることができた」と回答した児童の割合(%)	—	97.40%	96.20%		
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒から、理科に対する興味・関心や知的好奇心が高まったという感想が寄せられています。 ・計画的に理科実験助手の派遣人数を拡大することで、理科授業の工夫・改善や理科室の環境整備が進められており、計画は順調に進捗しています。 ・小学生科学体験事業において、学習内容が参加した児童にとどまる傾向がみられます。 					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業において、科学の講演会に係る講師や科学体験指導員による実験・実習指導の充実を図り、児童生徒の理科に関する知的好奇心や探究心を深めるようにします。 ・小学校に理科実験助手を計画的に派遣し、市内小学校の実験準備を円滑にするとともに教員の指導技術を高められるようにします。 ・小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学との連携を積極的に進め、児童生徒の理科に関する興味・関心を広げるようにします。 					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施 策 の 柱		(1)確かな学力の育成			
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②各学校の課題に応じた学校支援事業の推進	学校管理課	B		
	③わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A		
学 識 経 験 者 等	<ul style="list-style-type: none"> ・オールマイティーチャーターの配置について、いじめ等校内の問題については初期対応が大切だと思うが、生徒指導に当たる人材育成と同時に人的な配置が必要であると思われるので、充実を図っていただきたい。 ・学力向上については、学校が楽しい、授業が面白いというようなことの積み重ねで体得していく部分が大切だと思うので、科学わくわくラーニングプログラムのような事業を長年取り入れられていることは評価できる。 ・理科実験助手の派遣について、理科の実験がうまく成功するかしないかは事前の準備等で変わってくるので、その部分をフォローしてくれる理科実験助手の人員の増加が図れるように努めていただきたい。 				B

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	①小学校・中学校連携の推進				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小・中学校を8つのブロックに分け、それぞれのブロックごとに情報や課題等を共有しながら、接続校同士の連携を一層深めていきます。 校長のリーダーシップのもと、教育委員会から各ブロックに指導主事を配置する等サポートをしながら、これまでの取組の見直しや改善を図り、より一層の充実・活性化を図ります。 					
平成28年度実績	<p>連携事業として、教員間では授業の参観及び研究協議が行われ、教育課程や特別支援教育などの合同研修会が実施されました。児童生徒間では小学校6年生の部活体験や1日体験入学が中学校で実施され、音楽会や運動会での交流も図られました。</p>					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	中学校1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	1.67	1.89	1.69		
	小中9年間を見通した年間指導計画を作成・実施した学校の割合(%)	—	—	—		
現状・課題	<p>中学校1年生の不登校数は、増加の割合は抑えられており、小・中連携が中一ギャップの解消につながっていると考えられます。また、合同研修会、授業公開・研究協議、連絡会・情報交換会などが成果としてあげられ、各校が研修を通して教職員の指導力向上を図り、小・中の系統を意図した学習指導、生徒指導に取り組んでおり、おおむね順調に進捗しています。今後は小・中連携教育から小・中一貫教育へと連携を進めることが課題となっています。</p>					
改善の方策等	<p>今後、小・中学校で育てたい児童・生徒像を共有し、小中9年間を見通した年間指導計画を作成し、実施するなど、小・中一貫教育を意図した連携事業の改善・深化に努めます。また、平成29年度に小中一貫教育推進モデル校に小学校1校、中学校1校を指定し教育課程や目指す児童生徒像の研究を進めます。</p>					

細 施 策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施策の内容	<p>中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を推進します。</p>					
平成28年度実績	<p>市立川越高等学校と近隣3中学校の平成28年度研究委嘱校間では、授業や体育祭などの学校行事の参観、高校教員による中学校での出前授業や進路に関する説明、中学生による上級学校訪問や生徒相互の部活動交流等を実施しました。中学生による高校の体験授業では、学年全体で参加することも行われ、連携が深められました。</p>					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	教員・保護者間の交流活動件数(件)	19	28	25		
	生徒間の交流件数(件)	11	12	12		
現状・課題	<p>出前授業や体験授業、部活動の相互交流や合同練習などが積極的に取り組まれ、教員の意識も高くなり、おおむね順調に進捗しています。今後、より多くの市内各中学校との連携を拡大することが課題となっています。</p>					
改善の方策等	<p>平成29年度は、より多くの中学校との連携が実施できるようブロック内の連携校の見直しを行いました。系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす校種間連携を目指し、さまざまな取組を実施してまいります。</p>					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会を実施し、幼稚園、保育園、小学校の連携の在り方について話し合い、幼・保・小の円滑な接続を図ります。 ・教育委員会主催の研修会に幼稚園、保育園からの参加者を募り、共通のテーマで学び合い、それぞれの役割についての理解を深めます。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを「子どもの発達と学びの連続性をはぐくむ幼保小の連携」とし、「他者との関係を育む活動」に視点をあてて実践事例集を作成しました。 ・幼保小連絡懇談会を6会場で実施し、授業公開や実践事例集に基づいた協議を行いました。 ・各会場での記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に閲覧用として配布しました。 								
指標及び説明	【指標】 各種連携会議の参加者数				【説明】 市内の幼稚園、保育園、小学校(中学校)から市教委主催の懇談会・研修会等に参加した教職員の延べ人数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	人	303	307	324					320
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会に112の園・校が参加し、年間を通してテーマに基づき連携を推進することができ、順調に進捗しています。 ・研究の視点を他者との関係を育む活動に絞ることで、幼保小の課題解決に向けた情報共有が可能となり、順調に進捗しています。 								
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校へ周知し、今後も参加園・参加者の拡充を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施 策 の 柱	(2)校種間連携の推進				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	B	B	B
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A		
学 識 経 験 者 等 意 見 等	小学校から中学校に上がる時の進路指導が、小学校に上がる時と同じようにきめ細かく行われるように、校種間連携を進めていただきたい。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (3)グローバル化に対応する教育の推進

細 施 策	①英語指導助手（AET）の配置事業の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、「聞くこと」「話すこと」等の技能を伸ばすため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手(AET)の充実を図ります。								
平成28年度実績	直接雇用のAETを1名増員し、直接雇用AET5人、川越市直接雇用AET(KET)2人、派遣契約17人、合計24人のAETを配置しました。 (訪問実績) 英語指導助手(AET)24人 小学校 1,036日 中学校 2,234日 市立川越高等学校 151日 合計 3,152日								
指標及び説明	【指標】 AET配置実績				【説明】 英語指導助手(AET)の配置人数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
		人	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
		22	23	24				32	
現状・課題	直接雇用のAETを1名増員し、教員とAETの共同授業において、AETを効果的に活用できる配置が可能となり、おおむね順調に進捗しています。								
改善の方策等	直接雇用の質の高いAETの人数を段階的に増やしていくとともに、小学校中学年における外国語活動、小学校高学年における英語科導入に向け、増員したAETは小学校に積極的にAETを配置していくように努めます。								

細 施 策	②小学校外国語活動の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施策の内容	平成32(2020)年の学習指導要領の改訂において、外国語活動が小学校中学年から導入されることを視野に入れ、児童の外国語活動におけるコミュニケーション能力を伸ばす等の教員の指導力向上を図ります。								
平成28年度実績	次期学習指導要領における小学校外国語の教科化を鑑み、増員したAETを重点的に小学校に配置し、訪問回数を増加しました。また、配置されたAETと担任教師が、効果的に授業を展開し児童が英語に親しめるよう、市内全小学校の教員参加とする小学校外国語指導力向上研修会、市内全小・中・高等学校の教員全参加とする授業研究協議会等の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図り、小学校外国語活動の充実・推進をしました。								
成果実績	項目名(単位)		H26	H27	H28				
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)		4.63	4.57	4.63				
	小学校5・6年1学級当たりのAETの年間訪問回数(日)		5.56	5.48	6.20				
現状・課題	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)が、増加し、児童がAETを通して外国文化や英語に触れる機会が増えており、順調に進捗しています。								
改善の方策等	平成29年度は、AETは増員されず、現人数のままの配置が予想される中、担任とAETの効果的な授業が展開できるよう、さらに研修会を充実させ、教職員の指導力・英語力の向上を図ります。								

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (3)グローバル化に対応する教育の推進

細 施 策	③小学校・中学校英語教育の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	平成32(2020)年の学習指導要領の改訂において、小学校高学年の英語の教科化や中・高等学校の英語教育の高度化が図られることを視野に入れ、児童生徒の英語力の強化を目指し、教員の指導力向上や外部人材の活用促進を図ります。								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、小学校外国語活動指導者研修会等を実施するとともに、小学校外国語活動アクティビティー集を作成し、具体的な指導方法や模擬授業を実施する研修を行い、教員の指導力の向上を図りました。 ・中学校においては、英語科指導力向上研修会等を実施するとともに、英語指導助手活用実践事例集を作成し、教員の英語力の向上を図るとともに、生徒のコミュニケーション能力の基礎の育成を図りました。 								
指標及び説明	【指標】 授業における英語担当教員の英語使用状況				【説明】 授業を英語で行う英語担当教員の割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	51.6	H27 20.0	H28 71.0	H29	H30	H31	H32	85.0
現状・課題	教員の指導力向上に向け、授業における英語担当教員の英語の使用状況はおおむね順調に進捗しています。								
改善の方策等	小学校高学年の英語の教科化や中学校の英語教育の高度化が図られることを視野に入れ、英語の研修を増やすことにより、今後、特に小学校教員の指導力の向上を図る研修の充実に努めます。								

細 施 策	④国際理解教育の推進				担当課	担当課評価
					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。 ・グローバル化に対応した教育環境づくりを推進し、国際理解教育の推進を図ります。 					
平成28年度実績	教職員の英語力向上を図るとともに、グローバル化に対応できるよう外国の文化に対する理解を深め、児童・生徒の指導に生かすことを目的として「AETと楽しむ英会話研修会」を実施しました。					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	AETと楽しむ英会話研修会 参加者数(人)	10	12	13		
現状・課題	<p>小学校学習指導要領改訂を受け、平成32年度より、中学年に「外国語活動」、高学年に「外国語」が導入されることとなり、これまで以上に国際理解教育を推進することが必要になってきています。</p> <p>今後さらに、本研修の需要の高まりが予想されます。教職員の英語力を向上させ、児童・生徒の発達段階や実態に即して国際理解教育を進められるよう、参加者が希望に応じてコースを選択できる等の工夫をし、さらに充実させていく必要があります。</p>					
改善の方策等	平成29年度より、名称を改め、さらに参加対象者を「英会話初級研修会」「英会話中・上級研修会」に分けて実施します。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施策の柱		(3) グローバル化に対応する教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	A	A
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	A		
	③小学校・中学校英語教育の充実	教育センター	B		
	④国際理解教育の推進	教育センター	A		
学識経験者等意見	AETの配置について、現在の配置が適切かどうか検討し、外国語の教科としての正式な導入までに課題を見つけながら、拡充を図っていただきたい。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (4)進路指導・キャリア教育の充実

細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実			担当課	担当課評価
				教育指導課	A
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に応じた進路指導・キャリア教育の充実に努めます。 ・川越市中学生社会体験事業を実施し、地域の事業所等での体験活動を通して勤労観や職業観を養う機会の充実に努めます。 				
平 成 2 8 年 度 績	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市中学生社会体験事業を、市立全中学校で実施し、事後のアンケート調査を行いました。その結果を、事業実施以降の指導に活用しました。 ・「進路指導・キャリア教育研修会」を実施しました。「キャリア教育の現状と課題について」をテーマとし、前半の講義に加え、後半は参加者によるグループ協議等を行いました。 ・関係団体等との連携を図り、本事業を円滑に運営することができました。 				
成 果 実 績	項目名(単位)	H26	H27	H28	
	社会体験事業実施後のアンケートで「自分の将来の夢や希望について考える機会となった」と回答した生徒の割合(%)	89.20%	89.20%	93.58%	
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後のアンケート調査によると、「働くことの大切さや意味を考える機会となりましたか」「仕事をするために、周りの人との協力が大切なことが理解できましたか」「あいさつや時間など社会のきまりを守ることの大切さを理解できましたか」「働くことの厳しさ、大変さを知ることができましたか」の項目で、98%以上の生徒が肯定的な回答を示し、本事業は順調に進捗しています。 ・事業の実施時期、生徒の希望にあった事業所の確保、事業所までの通勤方法が課題として挙げられています。 				
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験活動の事後指導を確実にいき、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。 ・校区内の事業所等の開拓、確保に努めます。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施 策 の 柱		(4)進路指導・キャリア教育の充実			
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	A	A	A
学 識 経 験 者 等	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市中学生社会体験事業は、子どもたちが社会の中で一般の人たちと接する窓口になる大切な事業だと思っているので、各学校の受け入れ先の確保について、教育委員会としても後押しをしていただきたい。 ・受け入れ先のインフルエンザの流行等により実施できなくなった場合に、代替の場所で社会体験活動ができるとよいと考える。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (5)情報教育の推進

細 施 策	① ICT教育の推進				担当課	担当課評価
					教育センター	B
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報活用能力を身に付け、主体的な学びができるよう推進します。					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、平成27年度は1学級あたり小学校で67.8回、中学校で84.0回に対し、平成28年度は小学校で70.1回、中学校で90.8回と増加傾向にあります。 ・デジタル教科書の1校あたりの活用回数は、平成27年度は383.4回、平成28年度は392.6回となり、増加傾向にあります。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	ICTを活用して学習指導ができる教員(%)	76.9	78.5	78.0		
	児童生徒にICT活用を指導できる教員(%)	74.4	73.9	72.1		
現状・課題	デジタル教科書の活用を含め、ICTの活用は増加しています。ICTを活用して学習指導ができる教員や、児童生徒にICT活用を指導できる教員の割合が停滞しています。ICT機器の活用の実践を周知したり、授業公開を行うなどして具体的な実践例を示し、活用をはたらきかけていきます。					
改善の方策等	教職員一人一人の能力や適性に合った研修会を引き続き計画的に実施することによって、ICT教育の効果や必要感を周知し、授業でのICT活用を推進していきます。					

細 施 策	②情報モラル教育の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、管理職や情報化推進リーダー等を対象にした情報モラル教育の研修の充実を図ります。								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育に関しては、小学校では主に総合的な学習の時間で、中学校では、技術家庭科(情報分野)の年間指導計画に全校位置付け実施されています。 ・平成28年度小・中学校の情報モラルに関する授業の実施回数は、1校あたり30.0回となっています。 								
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合				【説明】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合(文部科学省及び川越市独自調査)				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値						目標値(H32)
	%	90.0	H27	H28	H29	H30	H31	H32	100.0
現状・課題	情報モラルに関する指導ができる教員の割合が減少傾向にあります。情報の技術革新に伴い、SNS等のコミュニケーションツールのトラブルの回避や、著作権、肖像権等の指導力の向上に努めます。								
改善の方策等	情報モラル教育に関する研修の内容を充実させ、教職員の情報モラルに対する指導力の向上に努めます。また、保護者を対象とした研修会においても情報モラルについて扱い、情報の安全管理や情報モラルについて一層啓発してまいります。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (5)情報教育の推進

細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施 策 の 内 容	情報化の進展に対応する児童生徒を育成するためにコンピュータ室等の教育用パソコンを計画的に更新するとともに、校内LANを計画的に整備し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。								
平 成 2 8 年 度 績	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度は小学校2校・中学校12校の校内LAN環境を整備し、児童生徒用のコンピュータ(タブレット)を680台導入しました。また、校務用コンピュータを小学校では370台、中学校においては260台の導入・入れ替えをしました。 学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため、教職員に対してデジタル教科書や電子黒板の活用に関する研修会を実施し、教職員の指導力の向上を図りました。 								
指 標 及 び 説 明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用 授業回数				【説明】 児童生徒が授業の中でICTを活用して学ぶ授業の年 間実施回数				
	指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値				目 標 値 (H32)	
	回	51.1	H27 74.8	H28 84.4	H29	H30	H31	H32	75.0
現 状 ・ 課 題	平成26年度からICTを活用した授業を行う回数が増加傾向にあります。タブレット型コンピュータ等のICT機器の導入を計画的に行っています。新しい機器を効果的に使用するために、タブレット型コンピュータ等のICTを活用した授業づくりに関する研修会を進めていきます。								
改 善 の 方 策 等	平成29年度は、校内LAN敷設工事を中学校10校で実施し、合わせて500台のコンピュータ(タブレット含む)を導入予定です。平成29年度から平成31年度まで、計画的に全小・中学校に校内LAN敷設工事とともにコンピュータの導入も実施し、設備の充実を図っていきます。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施 策 の 柱	(5) 情報教育の推進				
施 策 評 価	細 施 策	担 当 課	施 策 評 価		総 合 評 価
			細 施 策	施 策 の 柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	B	B	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	B		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	A			
学 識 経 験 者 等 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ICTについては、次々に技術が更新されていくので、ICTに精通した担当者を置くなど、常に新しい技術等についていけるような仕組みが必要だと考える。 ICT教育や情報モラル教育については、携帯電話会社などの外部の団体が実施する教室等も活用しながら進めていただきたい。 				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (6)特別支援教育の充実

細 施 策	①就学支援委員会の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、特別な支援を必要とする子どもに対して、一人ひとりのニーズに応じた学びの場と学習内容の判断を行い、就学の適正化を図る、学識経験者、専門医、学校教育機関の代表、関係行政機関の職員で構成する就学支援委員会の充実を図ります。								
平成28年度実績	就学相談が必要な幼児、児童生徒に対して、本人の観察や保護者との面談、諸検査の実施、学校・就学前施設からの聞き取り等を通して、児童生徒一人ひとりに合った学びの場の判断を行い、具体的な支援方法等について保護者に情報提供を行いました。就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対しては、必要とする十分な情報提供を行い、適切な就学先を決定できるように努めました。								
指標及び説明	【指標】 就学相談での判断と実際の就学状況一致率				【説明】 就学支援委員会の判断結果と保護者、本人が決めた就学場所が一致した割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	%	75.0	H27 79.2	H28 86.6	H29	H30	H31	H32	80.0
現状・課題	定期の就学相談のほか、相談の内容や重ねて相談が必要な状況に応じて、臨時的就学相談を実施しました。児童生徒について多くの情報をもとにした、適切な就学先の判断や継続的な相談が進められており、順調に進捗しています。								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対し、必要とする十分な情報提供を今後も行っていきます。 ・児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。 								

細 施 策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、自立支援サポーターの活用促進や、通常の学級における支援の推進に努めます。 ・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた支援の充実を図ります。 ・小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実に努めます。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒の中で、学習障害(LD)・注意欠如多動性障害(ADHD)・自閉症スペクトラム障害等の発達障害やその傾向にある個別の支援を必要としている児童生徒数は、年々増加しており、各学校からの自立支援サポーターの申請数も増えています。 ・申請の出された学校には、各学校の実態に応じて週1～2日の範囲で、すべて自立支援サポーターを配置しました。 								
指標及び説明	【指標】 特別支援教育支援員一人あたりの児童生徒数				【説明】 特別支援教育の臨時指導員と自立支援サポーター一人あたりの児童生徒の割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	人	10.5	H27 13.9	H28 10.3	H29	H30	H31	H32	6.0
現状・課題	各小・中学校から、個別の支援を必要とする多くの児童生徒が報告される中、自立支援サポーターが該当児童生徒に対し、別室で個別指導を行ったり、クラスの中に入って活動の助言、支援を行いました。対象児童生徒との信頼関係を築きながら、個別の支援を進めています。								
改善の方策等	自立支援サポーター一人ひとりが、児童生徒の多様な状況に対応できるようにするため、支援の仕方に関する研修の充実を図ります。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成
 【施策の柱】 (6)特別支援教育の充実

細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」の開催により、セミナーに参加した保護者が、就学相談や教育相談を希望する等、児童生徒のよりよい成長のための支援の在り方を共に考えることができました。 ・特別支援学級の授業について関心のある保護者は多く、一人で数校の公開授業に参加する方がいる等、毎年約300人が申し込んでいます。 								
指標及び説明	【指標】 特別支援学級授業公開参加者数				【説明】 特別支援学級の公開授業に参加する保護者の人数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	人	299	H27 292	H28 284	H29	H30	H31	H32	320
現状・課題	<p>保護者向けセミナーや特別支援学級の授業公開日を設けることで、発達障害や特別支援教育、子供の就学について具体的に知り、理解してもらうことができました。また、授業公開を行うことで、教員が積極的に研修を重ね、指導の工夫を図る等、資質の向上につながっています。</p>								
改善の方策等	<p>セミナーやリーフレットをさらに活用し、障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。また、セミナーの内容について、参加する方のニーズに合わせた内容を工夫し、特別支援教育の理解を図ります。</p>								

細 施 策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実							担当課	担当課評価
								教育センター・特別支援学校	B
施策の内容	<p>市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割を担えるよう支援体制の整備を推進します。</p>								
平成28年度実績	<p>市立特別支援学校のセンター的機能に基づき27件の相談、研修等に対応しました。 (内訳) ・保護者との面接相談11件 ・特別な配慮が必要な児童生徒についての小・中学校への指導援助9件 ・小・中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施5件 ・その他(介護等の体験事前指導、異校種体験教員受け入れ、巡回支援等)2件</p>								
成果実績	項目名(単位)	H26		H27		H28			
	特別支援学校のセンター的機能による対応数(件)	保護者	5	保護者	3	保護者	11		
		学校	15	学校	4	学校	9		
		研修	2	研修	3	研修	5		
		その他	11	その他	4	その他	2		
合計	33	合計	14	合計	27				
現状・課題	<p>特別支援学校としての専門性を生かし、地域の特別支援教育の推進を支援するセンター的機能を発揮し、保護者、小・中学校への指導援助や研修会を実施しています。平成27年度から、市の巡回相談を実施しており、センター的機能の活用について調整を図っています。</p>								
改善の方策等	<p>特別支援教育の理解・啓発をより一層推進してまいります。</p>								

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施策の柱		(6) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①就学支援委員会の充実	教育センター	A	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター	B		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター	B		
	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター 特別支援学校	B		
学識経験者等 意見	<p>・特別支援教育の理解・啓発の推進については、大人向けのものだけではなく、子ども向けのものについても、ある程度小さいうちから積極的に行っていけば、社会に出てからも積極的に関わることができるようになるのではないかと考える。</p> <p>・特別支援教育については、特別支援学校が各学校で特別支援学級を新たに担任するような人たちを支援するなど、人材を育成する継続的なシステムを作り、特別支援教育を担う教員の養成について充実を図っていただきたい。</p>				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	①道徳教育の充実				担当課	担当課評価
					教育指導課	B
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師研修会を年2回実施しました。 ・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。 ・教科化に向けて、教師の指導力向上を目指した道徳教育の冊子「川越市の道徳教育」を作成しました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	道徳の時間を楽しみ、あるいはためになると思う児童がクラスのほぼ全員である小学校数(全32校)	—	19	13		
	道徳の時間を楽しみ、あるいはためになると思う生徒がクラスのほぼ全員である中学校数(全22校)	—	1	2		
現状・課題	道徳教育推進教師研修会や学校指導訪問等を通して、指導力の向上を図ることができ、おおむね順調に進捗しています。					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心とした校内組織を整備するとともに、家庭・地域との連携した取組や「私たちの道徳」や埼玉県資料を積極的に活用し、道徳教育の充実を推進します。 ・作成した「川越市の道徳教育」を活用し、さらなる道徳教育の充実を図ります。 					

細 施 策	②規律ある態度の育成の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	学校が家庭や地域と連携を密にし、児童生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図ります。								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校における校種間の連携を通して、9年間を見通した生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を推進しています。 ・各学校において、保護者や地域と連携した「あいさつ運動」等の取組を推進しています。 								
指標及び説明	【指標】 「規律ある態度」達成率80%以上の項目数 ①小学校:各学年12項目×6学年 ②中学校:各学年12項目×3学年				【説明】 埼玉県学力・学習状況調査質問紙において達成率が80%以上であった項目の数				
指標の推移	単位	現在値(H26)		実績値				目標値(H32)	
		H27	H28	H29	H30	H31	H32		
	① 項目	67/72	69/72	67/72					72/72
	② 項目	33/36	34/36	33/36					36/36
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現状としては、「時刻を守る」「生活の決まりを守る」等の規律面に関しておおむね90%以上の達成率を示しており、おおむね順調に進捗しています。 ・小学校第4学年から中学校第3学年において、「話を聞き発表する」の項目が年を重ねるごとに達成率が下がる傾向にあるため、学級活動及び各教科におけるコミュニケーション能力の育成に取り組むことが課題です。 								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校指導訪問等の機会をとらえ、各学校の実態に即した取組を支援してまいります。 ・学力向上研究委員会において、特別活動部会を計画的に行い、コミュニケーション能力の育成を目指した具体策等を検討してまいります。 								

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	③読書活動の充実							担当課	担当課評価
								教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学生は「小江戸読書マラソン」の取組、中学生は「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。 小学校入学時に読書活動啓発リーフレットを配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。 司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営を充実させ、読書活動の推進を図ります。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」を配布し、意欲的な読書活動が進められるようにしました。 中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、生徒の興味・関心を踏まえ、取り上げる本を見直すなど内容を改善しました。 読書活動啓発リーフレットについて、内容を見直し、改善を図りました。 								
指標及び説明	【指標】 ①児童一人あたりの読書冊数 ②生徒一人あたりの年間読書冊数(読んだ本の感想等を記入した冊数)				【説明】 ①川越市小江戸読書マラソン実施状況調査における実施期間中の平均読書冊数 ②川越市小江戸中学生読書手帳活用状況調査において読書手帳に記入された平均読書冊数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	① 冊	54.9	57.9	60.7				56.0	
② 冊	12.1	12.1	11.5				13.0		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では読書マラソンカードの積極的な活用により、平均読書冊数は向上しており、順調に進捗しています。 中学校では読書冊数が減少したため、読書手帳について全校読書や授業での活用を継続して、読書冊数増加に努める必要があります。 								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 読書マラソンカードを活用した読書啓発の実践を進めることで、今後の読書冊数の増加が期待できます。 読書手帳に掲載されている作品について授業を通じて更に活用し、今後の読書冊数の増加に努めます。 								

細 施 策	④市立図書館司書等による読み聞かせの推進							担当課	担当課評価
								中央図書館	B
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持たせるため、市立図書館職員の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。								
平成28年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。また、市立小学校5校の1年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。								
指標及び説明	【指標】 図書館職員による学校訪問等の学級数				【説明】 学校訪問等により本などの紹介を実施した市内小・中学校の学級数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	学級	96	96	103				110	
現状・課題	市立図書館司書等による全市立小学校3年生への学級訪問等の実績は順調です。他学年への学級訪問等の数が少ないことが課題です。								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行います。 文字の習得により児童自身の読書活動が活発になる小学校1年生へ本の紹介を行います。 市内小中学校の教員に事業のPRをします。 								

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	⑤市立図書館から学校への図書貸出の推進							担当課	担当課評価
								中央図書館	A
施 策 の 内 容	児童生徒の調べ学習等の要望に応えるため、市立図書館から学校への図書貸出を推進します。								
平 成 2 8 年 度 実 績	児童・生徒たちへの「テーマ」に沿った図書を市内小学校に8,316冊、中学校に385冊貸し出しました。								
指 標 及 び 説 明	【指標】 学校への団体貸出数				【説明】 市内小中高校の各学級に団体貸出(100冊を上限に1か月間貸し出す)により貸し出した冊数				
	指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値				目 標 値 (H32)	
	冊	7,833	H27 8,494	H28 8,701	H29	H30	H31	H32	11,000
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度実績は、8,701冊で平成28年度想定目標値に対して約98%の達成状況となり、順調に進捗しています。 高校からの団体貸出利用について、課題があります。 								
改 善 の 方 策 等	引き続き市内小中学校の教員に事業のPRをします。また、高校の教員にも事業のPRをします。								

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

施 策 の 柱	(1)豊かな心を育む教育の推進				
施 策 評 価	細 施 策	担 当 課	施 策 評 価		総 合 評 価
			細 施 策	施 策 の 柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成の推進	教育指導課	B		
	③読書活動の充実	教育指導課	A		
	④市立図書館司書等による読み聞かせの推進	中央図書館	B		
⑤市立図書館から学校への図書貸出の推進	中央図書館	A			
学 識 経 験 者 等 意 見	「市立図書館から学校への図書貸出の推進」については、図書館と国語の担当の教員とがコミュニケーションをとりながら、子どもたちの本に対する親しみを増やしていくよう、図書貸出を推進していただきたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (2)生徒指導の充実

細 施 策	①いじめ防止対策の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各市立小・中学校におけるいじめ問題の実態を把握し、いじめの根絶に向けた取組を推進します。 ・いじめ問題対策委員会の意見を踏まえ、具体的な取組を推進します。 ・児童相談所等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止対策では、各学校の相談体制、校内いじめ対策委員会、アンケート実施、児童生徒の活動などの進捗状況を定期的に確認して取り組みました。また、いじめ・不登校対策検討委員会では、リーフレット「児童生徒の手で築く『いじめをしない学校』を目指して」を作成し、市内全教員へ配布しました。 ・年3回いじめ問題対策委員会を開催し、いじめ防止に向けた各施策、取組等についての意見に基づいていじめ防止対策を推進しました。 ・生徒指導上の支援を必要とする児童生徒について、学校及び児童相談所やこども家庭課等とのケース会議等で連携し情報の共有を図りました。 								
指標及び説明	【指標】 いじめは、どんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合				【説明】 全国学力・学習状況調査質問紙において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童生徒の割合(対象:小学校第6学年・中学校第3学年)				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	96.1	H27 95.7	H28 95.8	H29	H30	H31	H32	100.0
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策の推進のため、施策や取組を含む「川越市いじめの防止等のための基本的な方針」についてPDCAサイクルによる見直しを行いました。さらに、市立全小・中学校で「学校いじめ防止基本方針」の見直しを進め、いじめ問題への早期対応と、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図りました。 ・いじめ未然防止に向け、各学校と関係機関との連携をより円滑にしていけることが大切です。 								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。 ・いじめは、どんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合を高めるため、川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。 ・児童生徒への具体的な支援策を検討するための関係機関との連携について、体制の強化を図ってまいります。 								

細 施 策	②不登校対策の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校対策検討委員会において、協議内容や成果物をもとに不登校問題の防止や対応に向け、具体的な取組を推進します。 ・臨床心理士やスクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した相談体制の充実を図るとともに、不登校児童生徒や保護者を支援し、不登校児童生徒の減少を目指します。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回から2週間に1回の割合で県から配置されているスクールカウンセラーが、生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて7,087回の相談を行いました。 ・スクールソーシャルワーカーを活用し、福祉関連機関との連携を図っています。 ・教育センター分室配置の臨床心理士が学校訪問やリバーラでの面接相談のスーパーバイズを行い、支援の充実を図っています。 								
指標及び説明	【指標】 スクールカウンセラーが関わりを持ち、解決した割合				【説明】 中学校に配置されているスクールカウンセラーが関わりを持ち、解決した割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	77.5	H27 77.5	H28 79.0	H29	H30	H31	H32	85.0
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーが相談に応じ、不登校が解決・改善した割合は79%となっています。また、スクールソーシャルワーカーが、福祉関連機関との連携を図り、課題解決を図っています。不登校の要因が複雑化し、専門家がより連携を深め、支援の充実に努める必要があります。 								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を深め、支援の充実を図ります。 								

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (2)生徒指導の充実

細 施 策	③教育相談の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ児童生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 スクールカウンセラーや教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、児童生徒、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 中学校に配置のさわやか相談員が、小・中学生や保護者等延べ13,765人の相談に対応しました。 週1回から2週間に1回の割合で県から配置されているスクールカウンセラーが、児童生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて7,087回の相談を行いました。 スクールソーシャルワーカーを活用し、福祉関連機関との連携を図っています。 								
指標及び説明	【指標】さわやか相談員が関わりを持ち、解決した割合				【説明】中学校に配置されているさわやか相談員が関わりを持ち、解決した割合				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	87.3	H27	H28	H29	H30	H31	H32	90.0
現状・課題	さわやか相談員が対応した相談件数が27年度より増加していますが、問題が複雑化しており、解決した割合は82%となっています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、より専門的な立場からの支援を充実していくことが課題となります。								
改善の方策等	今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を図るとともに、特に不登校や不登校傾向にある児童生徒、および保護者への支援の充実を図っていきます。								

細 施 策	④いきいき登校サポートプランの推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	市内小・中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業等の「いきいき登校サポートプラン」をさらに推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度は、20人のスチューデントサポーターが、延べ244回の活動を行いました。 臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を行いました。 スクールソーシャルワーカーが学校、家庭、福祉関連機関と連携し、54件のケースに対応しました。 								
指標及び説明	【指標】学生が関わったことによって、何らかの形で学校復帰が図れている児童生徒の割合				【説明】スチューデントサポーターの学生が関わったことで、何らかの形で学校復帰が図れている児童生徒の割合				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	78.9	H27	H28	H29	H30	H31	H32	85.0
現状・課題	スチューデントサポーターの小中学校での活動や家庭訪問など、活動回数は240回を越えました。対応したケースの中には、引きこもりなど難しいケースもあり、対象児童生徒の状況に応じた活動を進めました。								
改善の方策等	スチューデントサポーターの配置について、関係の大学と連携し、大学生への事前研修や活動中の学生への指導の充実を一層図るとともに、対応するケースによって、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さらにリバーラの教育相談との連携を深めていきます。								

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

施策の柱		(2) 生徒指導の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①いじめ防止対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②不登校対策の推進	教育センター	B		
	③教育相談の充実	教育センター	B		
	④いきいき登校サポートプランの推進	教育センター	B		
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策の推進については、いじめの早期発見、早期対応ができるよう、法務局など他の行政機関が行っている相談活動等についても活用していただきたい。 ・いじめ対策を行うのは学校やその関係者だけではなく、地域社会全体で行うことも今後進めていく必要があると考える。 ・いじめや不登校などの個別の難しい問題については、臨床心理士に学校に来て見てもらい、対応の仕方について教えてもらうなど、子どもたちの理解と先生方の指導力の向上を図っていただきたい。 				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (3)健康の保持増進と安全・体力向上の推進

細 施 策	①学校保健活動の推進				担当課	担当課評価
					教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めます。 ・歯・口の健康づくりや食物アレルギー・アナフィラキシー対応、薬物乱用防止教育や性に関する指導等の保健教育を推進します。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における定期健康診断を実施しました。 ・学校環境衛生検査として、飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物検査、砂場の細菌検査、ダニまたはダニアレルゲン量検査を実施しました。問題があった場合には、指導により改善を図りました。 ・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。 ・薬物乱用防止教育研修会を開催するとともに、全校で薬物乱用防止教室を実施し、保護者へも周知を図り、健全な心身の育成に向けた取組を行いました。 ・養護教諭研修会で食物アレルギー・アナフィラキシー発生時の緊急対応を含めた、食物アレルギーを持つ児童、生徒への取組について各学校の事例発表や情報交換を行い、更なる共通理解を図りました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	薬物乱用防止教室の実施校数(校)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)		
	上記のうち、保護者参加の学校数(校)	—	—	24		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・予定された全ての検査を適切に実施し、問題があった場合は改善を指導し、再検査で状況を確認しています。 ・全校で児童、生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施しています。保護者の参加については、全校で周知を図っていますが、4割強の参加です。 					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生検査を実施し、衛生的で安全な学習環境の把握に努めます。 ・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組めます。 ・食物アレルギー・アナフィラキシーに対して適切な対応がとれるよう更なる定着を図ります。 					

細 施 策	②食育の推進				担当課	担当課評価
					教育指導課・学校給食課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、食に関する指導の推進に努めます。 ・効果的に食に関する指導を推進するため、栄養教諭の指導体制の整備を推進するとともに、学校・家庭・地域への啓発、情報提供など、学校給食センターと連携した取組を目指します。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や家庭科、体育科、総合的な学習の時間等において、食に関する指導を全校で実施する中で、食事の重要性や食文化について指導しました。 ・学校給食センターと学校給食課の栄養士が、全小中学校の2年生を対象に、食品の3つの働きやバランスのとれた食事の大切さ等について、食に関する指導を行いました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	食に関する指導の実施回数(回)	2,131	2,398	2,526		
	食に関する指導を実施した小学校数(全32校)	32	32	32		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において食育における年間指導計画を踏まえた指導を行っており、順調に進捗しています。 ・児童がより理解しやすい授業になるよう、指導媒体を研究し改善を行う等しており、順調に進捗しています。 					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の早い段階から食の大切さを理解してもらうため、今後も計画的に食に関する指導を実施していきます。 					

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (3)健康の保持増進と安全・体力向上の推進

細 施 策	③体力向上の推進								担当課	担当課評価
									教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒体力向上推進委員会により、児童生徒の発達段階に応じた体力向上策を推進します。 ・近隣大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」等の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。 									
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上推進委員会では、小・中連携を図るために小学校に中学校の教諭を招き、運動好きな児童を育成する指導や児童の技能向上を図る指導の工夫・改善に取り組みました。また、アンケート調査で、本市児童生徒の生活習慣の実態を把握しました。 ・トップアスリートふれあい事業を小学校6校で実施し、1,402名の児童が参加しました。 ・課題となっていた「ボール投げ」に関しては、小・中学校ともに若干ではありますが、回復傾向にあります。 									
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価におけるA～C評価の生徒の割合				【説明】 5段階評価で示される新体力テスト総合評価において上位3段階の評価(A・B・C)である生徒の割合					
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値						目標値 (H32)	
	%	84.9	H27 84.4	H28 84.0	H29	H30	H31	H32	85.5	
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト総合評価(5段階)の3段階以上の実績値の推移は、低下していますが、課題となっていた「ボール投げ」の記録が向上したため、おおむね順調に進捗しています。 ・平成28年度の新体力テストの結果から、本市児童生徒の体力課題は、「握力」「立ち幅とび」「50m走」です。 									
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き小中連携した授業での指導の工夫・改善に取り組み、運動好きな児童生徒の育成や技能の向上を図っていきます。 ・児童生徒の体力向上に向けて、体力向上推進委員会において、今後も効果的な指導方法の研究を推進します。 									

細 施 策	④安全・防災教育の推進				担当課	担当課評価
					教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育を推進します。 ・児童生徒の安全確保のため通学路安全点検の実施、スクールガード・リーダーの配置等、地域及び関係機関等と連携を図り、安全・安心の取組を推進します。 ・地震や火災等を想定した避難訓練を各学校の年間行事に位置付け、児童生徒の防災意識を高め、自ら危険を回避する能力の育成を図ります。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガードリーダー養成講習会を実施しました。 ・各学校からの通学路改善要望をとりまとめ、防犯・交通安全課に提出しました。 ・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を36回実施しました。 ・地震や火災等を想定した避難訓練を各学校で実施しました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	スクールガード・リーダーの平均年間活動回数(回)	—	—	197		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・32名にスクールガードリーダーを委嘱し、市立全小学校に配置しました。 ・スクールガードリーダー養成講習会の実施時期と内容を改善し、より多くの方が参加できるようにするとともに、効果的な講習ができるようにしました。 ・関係課との連携により、通学路の整備が進められ、おおむね順調に進捗しています。 					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車の乗り方による問題が多く、重大な事故につながるよう、交通安全指導を継続的に行います。 ・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、通学路の危険個所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。 					

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

施策の柱		(3) 健康の保持増進と安全・体力向上の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	A	A
	②食育の推進	教育指導課 学校給食課	A		
	③体力向上の推進	教育指導課	B		
	④安全・防災教育の推進	教育指導課	B		
学識経験者等	<p>・薬物乱用防止教室については、普通の人にはあまり知らない内容だと思うので、保護者の参加を図っていただきたい。</p> <p>・食育の推進について、給食センターの栄養士が積極的に学校に来て、色々なかたちで食育、栄養についての指導を行っていることは非常に評価できるので、今後とも充実を図っていただきたい。</p> <p>・トップアスリートふれあい事業は、一流の競技者とふれあうことで子どもたちの意欲が高まるので、実施校数を増やしていただきたい。</p>			A	

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	①経験・職能別研修の充実 (平成29年度より、経験者・特定研修の充実として実施)				担当課	担当課評価
					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。 ・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各教職段階に応じた研修として、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修を計画的に実施し、指導力の向上を図りました。 ・職能別研修として、「新任教務主任研修会」を新設し、ミドルリーダーの育成を図りました。また、「授業力アップ研修会」を増設し、臨時的任用教員の指導力の向上を図りました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	講座数(回)	36	39	39		
	参加延べ人数(人)	1,496	1,746	1,907		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各経験者研修の人数が増え、教員一人ひとりが一年間に研修に参加する回数も増加しました。また、学校のニーズに応じた研修(教科研修の充実)を重視し、経験に応じた資質・能力の向上を図ることができました。 ・今後の課題として「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業づくりに向けた研修を実施していくなど、質の高い研修の実施に努めていく必要があります。 					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・研修体系と研修内容の見直しを行い、研修の充実を図っていきます。 ・教員のキャリアステージに応じた、教員のニーズも踏まえた研修を効果的・効率的に行っていきます。 					

細 施 策	②管理職等研修の充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施策の内容	教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。					
平成28年度実績	校長、教頭を対象とした研修会を実施しました。(校長研修会、教頭研修会、一人一人を大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会、生きる力をはぐくむ校種間連携教育研修会等。)また、評価結果が昇給や勤勉手当に反映されることを踏まえた、人事評価制度研修会を実施しました。					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	研修会の実施回数(回)	19	23	26		
現状・課題	研修会に加え、学校訪問や人事評価におけるヒヤリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、おおむね順調に進捗しています。平成28年度は、人事評価の評価結果が翌年度の昇給や勤勉手当に反映されることから、人事評価の評価者としてのスキルを上げるための研修を昨年度以上に充実させました。今年度も、より信頼性、納得性の得られるような人事評価が実施できるよう、研修内容を充実させていくことが課題です。					
改善の方策等	人事評価研修では、事例研修や演習を取り入れるなど、日々の学校運営や実務に生かせるような研修内容の改善を図ります。また、学校の組織力をさらに向上させていくために、校長を助け補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図ります。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	③奨励研修の充実 (平成29年度より、専門研修の充実として実施)							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施 策 の 内 容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。								
平 成 2 8 年 度 実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度奨励研修に参加した教員の人数は、延べ904人でした。 ・市全体の教員1,344名に対し、奨励研修に参加した教員が679名(50.5%)でした。 ・研修内容の充実を図るため、文科省や大学教授をはじめ各分野における第一線の講師陣を迎え、次期学習指導要領改訂を見据えた学習・指導方法等、より専門性の高い研修会を実施しました。 								
指 標 及 び 説 明	【指標】 専門研修(奨励研修)参加率				【説明】 市全体の教員の中で、希望による専門研修(奨励研修)に参加した教員の割合				
指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値					目 標 値 (H32)	
	%	48.0	H27 47.9	H28 50.5	H29	H30	H31	H32	55.0
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・奨励研修(平成29年度より専門研修)に参加した教員の延べ人数は、昨年度の830人よりも74人増加しました。 ・2年目を迎えた「教育フェスタKAWAGOE」(特別研修)では、一層の研修内容の充実を図り、教職員が双方向で学び合い、高め合う研修を実施できたことも、研修参加人数の増加に繋がりました。 ・今後の課題として、キャリアステージに応じて求められる専門性の育成と合わせて、研修内容の充実を図っていくことが必要です。 								
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市教職員のより一層の資質・能力の向上のため、研修体系の整備を図り、研修内容・研修方法の工夫改善に向けた見直しを進めていきます。 ・特に「カリキュラム・マネジメント」や「アクティブ・ラーニング」の視点から研修内容・研修方法の充実を図っていきます。 								

細 施 策	④若手・中堅教員の育成				担当課	担当課評価
					学校管理課・教育センター	B
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・若手・中堅教員の教育に対する識見を高め、資質・能力の向上を図ることを通して、学校運営の推進者となる人材を育成していきます。 ・教育フェスタKAWAGOEにおいて、優れた授業実践や研究の成果を広く発信し、一人ひとりの教員の学ぶ場を提供します。 					
平 成 2 8 年 度 実 績	かわごえミドルリーダー研修については、平成28年度は24名の参加がありました。年間9回の研修をとおして、ミドルリーダーとしてベテランや若手教員に対して積極的にコミュニケーションをとることの必要性等や、学校運営に対する意識が高まりました。また、同じ中堅教員として悩みや課題を共有しながら、その解決に向けて取り組むなど、実践的な研修を展開することができました。					
成 果 実 績	項 目 名 (単 位)	H26	H27	H28		
	かわごえミドルリーダー研修 参加教員数(人)	—	35	24		
現 状 ・ 課 題	平成27年度からの新規事業で、28年度は2年目の実施となります。研修をとおして、参加者の学校運営への参画意識を高めるとともに、視野を広げることができました。さらに、平成28年度の受講生の中から、学校運営に関わろうとし、管理職選考を目指す者や教育委員会に入る者もあり、おおむね順調に進捗しています。昨年度に比べ、参加人数が減ってしまったことから、各校からの積極的な参加を促すとともに、若手からの人材育成も課題となっています。					
改 善 の 方 策 等	平成29年度も、5月下旬の開講式及び第1回研修会を皮切りに1月までに9回実施する予定になっています。充実した研修内容を各校に周知しながら、積極的に参加者を推薦するよう促していきます。また、研修内容を多様化し、継続して研修することで、スキルアップを図れるようにしていきます。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進							担当課	担当課評価
								学校管理課・市立川越高等学校	B
施 策 の 内 容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に普及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。								
平 成 2 8 年 度 績	平成28年度は、予備校における教員研修プログラムに地歴公民科の1名の教員が参加しました。その成果を教科会で報告し、授業における改善、進学補習の工夫等に共通理解を図り、組織的な取組として成果を上げました。また、11月18日には授業公開を実施しました。 大学等の主な合格状況につきましても、東京理科大学、青山学院大学、立教大学、法政大学、学習院大学、立命館大学などの難関大学に合格するなど、成果を上げています。								
指 標 及 び 説 明	【指標】 研修参加教員数				【説明】 大学等進学指導力向上研修に参加する教員の延べ人数				
指 標 の 推 移	単 位	現 在 値	実 績 値					目 標 値	
		(H26)	H27	H28	H29	H30	H31	H32	(H32)
	人	25	29	30					49
現 状 ・ 課 題	研修に参加した教員数・割合は増加し、おおむね順調に進捗していますが、大学等の進学指導に直接かかわる5教科(国・社・理・数・英)の教員が中心となって参加することもあり、全職員数に占める割合は6割を超えたところとなっています。								
改 善 の 方 策 等	市立高等学校の進学率の向上とともに、参加教員数の増加を積極的に図るよう取り組んでまいります。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施 策 の 柱	(1)教職員の資質向上				
施 策 評 価	細 施 策	担 当 課	施 策 評 価		総 合 評 価
			細 施 策	施 策 の 柱	
施 策 評 価	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	B
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④若手・中堅教員の育成	学校管理課 教育センター	B		
	⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課 市立川越高等学校	B		
学 識 経 験 者 等	・教職員の資質向上については、ベテランの教職員が持っている知見、知識、見識を若い世代に伝えることが大変重要だと思つるので、引き継ぎ等に注意しながら世代交代を行っていただきたい。 ・若手教職員の育成のため、中堅教職員の若手に対する指導についてのノウハウ等を伸ばしていただきたい。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (2)学習環境の整備・充実

細 施 策	①大規模改造工事等学校施設の整備の推進							担当課	担当課評価
								教育財務課	B
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため、大規模改造工事、トイレ改修工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改造工事を実施(小学校1校、中学校2校) ・トイレ改修工事を実施(小学校1校、中学校1校) 								
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進				【説明】 市立小・中学校の大規模改造工事の実施割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	%	59.8	H27 61.4	H28 62.9	H29	H30	H31	H32	81.0
現状・課題	平成28年度の実績値から、おおむね順調に進捗しています。								
改善の方策等	国庫補助の交付の見込みが薄くなってきているため、工事内容の見直し等を図り、目標水準を維持できるようにします。								

細 施 策	②普通教室への空調設備の設置				担当課	担当課評価
					教育財務課	A
施策の内容	児童生徒が集中して学習できる教育環境を整備するため、小・中学校の普通教室への空調設備の設置を計画的に進めていきます。					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室等に空調設備を設置(小学校3校) ・普通教室等に空調設備を設置するために必要な実施設計業務委託を実施(小学校15校) 					
成果実績	項目名(単位)		H26	H27	H28	
	小学校普通教室空調設備設置校数(目標値32)		—	—	3	
	中学校普通教室空調設備設置校数(目標値22)		—	—	0	
現状・課題	小学校3校の普通教室に空調設備を設置し、15校の実施設計を完了したため、順調に進捗しています。					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校について、平成29年度に15校の工事及び14校の実施設計を行い、平成30年度までに全ての普通教室に空調設備を設置できるようにします。 ・中学校について、平成29年度に基礎調査を行い、早期に全ての普通教室に空調設備を設置できるようにします。 					

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (2)学習環境の整備・充実

細 施 策	③学校図書館の充実							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	学校の教育活動の中で、学校図書館の活用が図れるよう、児童生徒の実情に応じた図書を計画的に購入し、蔵書の充実に努めます。								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 各学校に適切に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。 調べ学習や発展的な学習に活用できる本や児童生徒が興味・関心を寄せている本を計画的に購入し、学校図書館の環境整備を図りました。 								
指標及び説明	【指標】 小学校における学校図書館図書標準の達成率				【説明】 各市立小学校における学校図書館図書標準の平均の達成率				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	83.3	H27 86.9	H28 89.2	H29	H30	H31	H32	92.4
現状・課題	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は年々向上しており、おおむね順調に進捗しています。								
改善の方策等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替えにより、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。								

細 施 策	④教育機会均等化のための支援				担当課	担当課評価
					教育総務課・教育財務課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助を行うため、就学援助制度を推進します。 経済的な理由により高等学校等の学校へ進学することが困難な方に育英資金の貸付を行います。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度も4,000人を超える児童生徒が就学援助制度を利用することができました。 育英資金の新規貸付については、世帯の所得状況等を考慮し、入学準備金を29人に、学資金を40人に、それぞれ決定することができました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	就学援助認定者数(小学校)	2,794	2,720	2,807		
	就学援助認定者数(中学校)	1,731	1,643	1,666		
	入学準備金(新規)貸付決定率(%)	60.00%	81.58%	90.60%		
	学資金(新規)貸付決定率(%)	88.09%	78.72%	85.10%		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 現在、新入学児童生徒学用品費等は入学後の5月に支給しています。この支給時期を、入学前の3月に早めることが望ましいと思われます。 育英資金の貸付については支援が必要な方に行っており、順調に進捗していますが、入学準備金の貸付時期について、現状の3月末から早めることが望ましいと思われます。 					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度入学者から新入学児童生徒学用品費等を早期支給します。 育英資金の入学準備金の貸付時期について、現在より早期に実施できるよう検討を進めます。 					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(2) 学習環境の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①大規模改造工事等学校施設の整備	教育財務課	B	B	B
	②普通教室への空調設備の設置	教育財務課	A		
	③学校図書館の充実	教育指導課	B		
	④教育機会均等化のための支援	教育総務課 教育財務課	B		
学識経験者等 学意見	<p>トイレ改修については、子どもたちがトイレが臭くて我慢しているというようなこともあるので、できるだけ早めにすべての学校で実施されるように進めていただきたい。</p>				

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (3)学校給食の充実

細 施 策	①給食内容の充実							担当課	担当課評価
								学校給食課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、栄養のバランスが取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。 学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。 アレルギー対応食が安全で確実に提供できるよう実施体制の整備を図ります。 								
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における摂取基準に基づき、学校給食を小学校・中学校で187回実施しました。 農産物等の産地証明、残留農薬証明書等を求め、給食材料の安全性を確保しました。 地産地消の考えから、主食米については川越産米約243t、野菜については76t(16品目)を使用しました。 食材について、毎日3品目程度と給食1食分の放射性物質検査を実施しました。 								
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用割合				【説明】 学校給食で使用する野菜のうち、地場産野菜の使用割合(重量比)				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	8.1	H27 22.9	H28 18.5	H29	H30	H31	H32	22.0
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 地場産野菜の使用については、天候等により左右されます。平成28年度は、天候の影響等で、平成27年度より使用割合が下がったものの、おおむね順調に進捗しています。 米飯については、継続して川越産米を100%使用しています。 平成30年度からの食物アレルギー対応食の提供に向け、平成28年度に学校給食食物アレルギー対応検討委員会で検討を行い、「川越市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を作成しました。 								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れていきます。 食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。 食物アレルギー対応の実施について、学校や保護者への周知・説明を行っていきます。 								

細 施 策	②学校給食施設の整備				担当課	担当課評価
					学校給食課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 新学校給食センターの整備運営事業については、PFIの手法により推進していきます。 今成学校給食センターと菅間学校給食センターは、施設の改修と設備の修繕等を計画的に推進していきます。 					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度に契約した(仮称)川越市新学校給食センター整備運営事業について、当初の計画どおり、平成28年6月に設計を完了させ、7月から建設工事に着手しました。 学校給食センターの設備改修のための工事を行いました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	改修工事	事務室等空調設備工事(今成)	排水圧送管布設工事設計業務委託(菅間)	排水圧送管布設工事(菅間)		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 新学校給食センターの整備運営事業、今成学校給食センター及び菅間学校給食センターの改修共に計画どおり順調に進捗しています。 					
改善の方策等	引き続き計画どおり順調に進捗するよう努めます。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(3) 学校給食の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①給食内容の充実	学校給食課	B	A	A
	②学校給食施設の整備	学校給食課	A		
学識経験者等 意見	新学校給食センターではアレルギー対応食の提供を行う予定とのことであり、個別に対応できることは素晴らしいことなので、ぜひ実施していただきたい。				A

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (4)市立川越高等学校の改革・充実

細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進				担当課	担当課評価
					学校管理課・市立川越高等学校	B
施策の内容	川越市立川越高等学校教育審議会からの意見を踏まえ、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校の在り方について検討するとともに、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。					
平成28年度実績	各学科とも35人少人数学級編制、地域特別選抜を実施しました。教員の研修では、「大学等進学指導力向上研修」を活用し、大学進学予備校に教員を1名派遣し、学習指導力の向上を図りました。中高連携では昨年度と同様、3中学校との校種間連携教育の委嘱を受け、城南中2年生全員の体験授業の実施や、本校からの出前授業、中学校保護者への説明会、校内見学を推進しました。また、「川越市立川越高等学校長期的ビジョン」に係る学校における検討(報告)をいたしました。					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	全商検定3種目以上1級合格者数(人)	49	48	54		
	進路決定率(%) (大学及び専門学校進学者・就職者/卒業生)	97.6	95.0	92.3		
現状・課題	商業系(情報処理科・国際経済科)の生徒は、全商検定3種目以上1級の合格者数が、50名を超え、資格取得者数県内3位となり、普通科の生徒は、大学・短大への進学者数、進学率が高まっています。					
改善の方策等	平成27年度に開催された川越市立川越高等学校教育審議会の答申を踏まえ、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校づくりに資するため、継続的に将来構想について検討し、平成28年度に「川越市立川越高等学校長期的ビジョン」に係る学校における検討(報告)を受け、平成29年度には最終「長期的ビジョン」の原案策定を固めていきます。					

細 施 策	②市立川越高等学校教育環境の整備・充実				担当課	担当課評価
					市立川越高等学校	B
施策の内容	よりよい教育環境を整え、教育効果を高めるため、大規模改修の工事や施設設備の更新等、計画的に推進します。					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・LL教室の空調設備改修工事を行いました。 ・突発的なものも含め47件の修繕を行いました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	施設・設備改修工事	中庭整備工事	保健室空調設備改修工事	LL教室空調設備改修工事		
	施設・設備修繕件数(件)	61	44	47		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建築後、20年以上経過しているため、予定外の突発修繕が多く、機能を維持するために、応急的な修繕で対応しています。 ・施設、設備の老朽化が進んでいるため、関係課と協議し、大規模改修等の計画を策定し、計画的な改修等を行っていく必要があります。 					
改善の方策等	教育環境の維持・向上を図るため、第四次川越市総合計画実施計画に位置付け、計画的に施設・設備の改修、修繕を行ってまいります。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(4) 市立川越高等学校の改革・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	学校管理課 市立川越高等学校	B	B	B
	②市立川越高等学校教育環境の整備・充実	市立川越高等学校	B		
学識経験者等 意見	なし				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (5)教育センターの充実

細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実				担当課	担当課評価
					教育センター	B
施策の内容	教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、地域住民も活用できる施設となるよう推進します。					
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、体育館の屋根、電動昇降式バスケットゴールに係る工事を行いました。 ・施設の市民への無料貸出について広く周知され、施設利用者の延べ人数も3万人を超えました。 ・1階施設は市民の使用を優先し、主に昼間に活発に利用されています。また、体育館は、教職員研修と重ならない場合において、9時15分から20時45分まで市民に貸し出しを行うとともに、運動場は地域のサッカー団体に土・日曜日に貸し出しを行いました。 ・休日や夜間の貸し出しについては、管理業務を川越市シルバー人材センターに委託し、市民が施設を安全に利活用できる環境づくりを行いました。 					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	1階施設利用者数(人)	7,317	10,434	11,891		
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)	755/22,186	667/19,380	644/21,989		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に設置されている設備等に故障が見られるようになってきています。無料で貸出をしているため、修繕費は市で負担することになっています。設備等を丁寧にかつ安全に使用していただくことを周知していきます。 ・市内各校の体育館が卒業式、入学式で使えなくなるため、3月、4月期に利用団体が集中します。この時期は、申込順ではなく、職員が調整し利用していただくことで無用のトラブルを回避していきます。 					
改善の方策等	体育館を利用する市民の要望に応え、修理等の事案については、業者等の選定も含めて早急に対応し利用しやすい施設としての環境を整備していきます。					

細 施 策	②保護者・地域との連携研修の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	不登校や情報モラルの諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。								
平成28年度実績	「家庭・地域連携 保護者とともに考える研修会」において「情報モラル教育の進め方」の研修を行い、保護者・教職員にゲーム機、携帯電話(スマートフォン)等の使用に起因する子どもへの危険性や対処方法、与える際のルールづくり等について考えを深めることができました。保護者と教師で話し合いを行ったことで、様々な視点から考えることができました。								
指標及び説明	【指標】 保護者・地域との連携研修参加者数				【説明】 保護者とともに考える研修会への保護者の参加者数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	人	103	H27 107	H28 99	H29	H30	H31	H32	120
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の出席者の多くは各校のPTA役員です。各学校の各家庭に周知する意識をもてるように、各校の情報担当者や連携を図りながら働きかけていきます。 ・研修会の進め方についても改善を図るようにしていきます。 								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の周知方法の工夫を図り、保護者の参加者の増加に努めます。 ・講演会では、情報モラル教育に関わる内容等、子どもの生活状況に密着した課題を扱い、実生活に生かせる必要感ある研修内容になるよう努めます。 								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(5) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	B	B	B
	②保護者・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 意見	なし				

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (6)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進

細 施 策	①学校評議員制度の充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	A
施策の内容	地域に開かれた特色ある学校づくりを推進していくため、学校や地域の実情等に応じて学校評議員会を設置します。このことにより、保護者や地域住民等の意向を反映するとともに、学校の教育活動等を周知し、学校運営の充実を図ります。					
平成28年度実績	学校の現状と課題に即して、積極的な意見交換のもと、活発な話し合いによる学校評議員会議が実施されています。特に各学校の学校評価において、学校評議員が学校関係者評価の評価者である割合が大きく、開かれた学校づくりに寄与していると考えられます。					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	学校評議員が学校関係者評価の評価者になっている学校	56/56	56/56	56/56		
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56		
現状・課題	すべての市立学校で、ほとんどの学校評議員が学校関係者における評価者になっており、学校経営に関わる情報の共有化が図られています。学校は、保護者や地域住民等の意見の把握、反映だけでなく、学校運営の状況等を周知するなど、順調に進捗しています。今後、更に結果を公表する場や機会を増やしていく必要があります。					
改善の方策等	各学校で教育活動等について計画的に自己評価を行い、その結果を公表するとともに、多様な意見を幅広く広め、学校経営に生かすために積極的な情報提供を行っていきます。					

細 施 策	②地域人材活用事業の充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	A
施策の内容	小・中・特別支援学校が特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、各校の学校教育活動の一層の充実を図ります。また、小学校における外国語活動の充実のため指導体制の強化に努めていきます。					
平成28年度実績	市立小中学校53校が、トータルで305回、40団体と個人併せて604人の地域人材からそれぞれの学校において必要な支援をいただきました。児童生徒は、地域人材との交流によって、豊かな体験を得るばかりでなく、表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことができました。年度当初予定回数275回に対して111%の実績で、十分に活用が図れました。					
成果実績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	活用回数	401	391	305		
現状・課題	各学校からは、地域人材活用に対する期待が高く、活用回数を増やしたい意向です。平成28年度も、学校の実態や活用状況に応じて適宜、活用の追加承認を行い、年度当初の予定回数を上回る事業を実施しています。					
改善の方策等	今後も、学校からの計画に基づき、地域人材の活用に応えることによって、更に各校の特色ある教育活動の充実を図ります。					

- 【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (6)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進

細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施 策 の 内 容	各学校に在籍する外国籍等の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。					
平 成 2 8 年 度 績	平成28年度は、市立小中学校28校に在籍する外国籍等の児童・生徒で、日本語指導ボランティアの申請があった 70人中、63人に対してボランティア24人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ817回でした。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	申請受付数(人)	36	46	70		
	日本語指導ボランティア派遣	33	42	63		
現 状 ・ 課 題	日本語指導を要する児童生徒が増加傾向にあります。特に中国語圏、タガログ語圏からの編入学が増えており、その中でも、両親、本人とも全く日本語を話すことができないまま来日するケースが目立っています。中国語を始め、英語以外の言語に対応できる日本語指導ボランティアが不足していることが課題です。					
改 善 の 方 策 等	今後、日本語指導を必要とする外国籍等の児童生徒が増え、またその母国語の多様化によって、日本語指導ボランティアに求められる言語も多様化していくことが予想されます。これらに対応できるよう、効率的な派遣方法や人材確保のため、関係機関との連携を図っていきます。					

細 施 策	④学校評価の活用				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施 策 の 内 容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を図るとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりを目指します。					
平 成 2 8 年 度 績	各学校が自己評価のために、学校関係評価委員による授業参観、学校観察等を行うとともに、教員による自己評価・外部アンケートを実施しました。自己評価により、学校の課題や改善点を整理し、学校運営を改善することができました。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	学校評価で評価が向上した項目数	—	46	6		
	学校評価で評価Aの割合(%)	53.3	58.8	58.6		
現 状 ・ 課 題	各学校が、学校関係者に学校自己評価の評価理由及び改善策を提示し、年度末に学校関係者評価を実施し意見を伺っています。PDCAサイクルによる学校運営がおおむね順調に進捗しています。					
改 善 の 方 策 等	学校評価評価項目を、学校の実態に合わせたものにするために、関係者との連携を更に進め、学校運営の改善に資する学校評価を実現できるよう努めていきます。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(6) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校評議員制度の充実	学校管理課	A	A	A
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	A		
	③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	B		
	④学校評価の活用	学校管理課	B		
学識経験者等	日本語を母国語としない児童への日本語指導については、特に考え方の概念ができていない低学年への指導は非常に難しいと思うので、広く周知を図り、様々なところから人材を集めて、日本語指導ボランティアの充実を図っていただきたい。				A

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実
 【施策の柱】 (7)小・中学校の適正規模・適正配置

細 施 策	①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施 策 の 内 容	今後、全市的には、児童生徒数の減少が見込まれる中で、地域的な状況も加味しつつ子どもたちにとってよりよい教育環境を整備するため、川越市立小・中学校の適正規模・適正配置等に係る考え方を検討していきます。					
平 成 2 8 年 度 績	平成27年3月に作成した「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」を土台に、同年7月の政策企画課の通知「第四次川越市総合計画における将来人口推計について」や本市の現状なども参考にしつつ、前年度に引き続き、市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定のための検討を行いました。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H26	H27	H28		
	小中学校の在り方検討委員会 の開催回数	3	2	2		
	検討内容	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等		
現 状 ・ 課 題	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定のためには、市長部局の関係各課を交えての検討が必要です。 平成28年6月に示された「川越市公共施設等総合管理計画」や、本市の現状等との整合も考慮する必要があることなどにより、当該各課を交えて検討するには至りませんでした。なお、おおむね順調に進捗しています。					
改 善 の 方 策 等	平成27年1月に文部科学省が発出した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」等を参考にしつつ、「川越市公共施設等総合管理計画」との整合も考慮しながら、「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」に、小中一貫化等必要な記述を加筆、修正するなどの形で、本市としての小・中学校適正規模・適正配置基本方針を策定するため、市長部局の関係各課の協力を求め、検討を進めてまいります。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施 策 の 柱		(7)小・中学校の適正規模・適正配置			
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①小・中学校の適正規模・適正配置等	学校管理課	B	B	B
学 識 経 験 者 等	学校と地域とは密接に関連しており、学校の統廃合等は地域社会に非常に大きな影響を及ぼすので、川越市において最も適正な方向性はどのようなものかということを考えていただきたい。				